

課題

初等教育学科、教育心理学科、薬学科および幼児教育学科に入学予定の方は、課題を実行してください。

初等教育学科

	課題	コメント
1	週3回の体育・スポーツ活動を実施すること。	大学での体育・スポーツ授業は勿論、インターンシップ、介護等体験、教育実習などでは体力が必要です。今までに身に付けた体力を維持・向上させるため定期的に体を動かしましょう。
2	1日1回は子どもに関わる教育・福祉・心理について取り上げたテレビ番組を見たり、新聞記事を読んだりする。	子どもに関わる資格取得を目指す上で、教育・福祉・心理の分野での最新の話について幅広い知見を得、教育の今日的課題に普段から触れておきましょう。また、新聞等の記事を読むことで的確な表現方法を身に付けることができます。
3	PCの扱いに慣れておくこと。特に、Word, Excel, PowerPointの基本的な使い方はマスターしておくこと。	大学では、多くの授業でレポート提出が求められます。一目見て分かりやすい文章や図を用いた資料が作成できる力を身に付けておきましょう。
4	子どもをとりまくいろいろなものに関心をもつこと	自然、社会のしくみなど子どもを取り巻く環境は常に変化してきており、その変化が大きき子どもに影響を及ぼしています。まずは、「子ども」に関する事柄に興味や関心をもって欲しいと思います。
5	春、夏、秋、冬、のそれぞれの子どもの歌を調べて、聴いたり歌ったりすること。	子どもたちは「歌うこと」が大好きです。四季のある日本には、季節を感じられる子どもの歌がたくさんあります。みなさん自身が、それぞれの歌の魅力を味わってみましょう。どの歌を子どもたちと一緒に歌ってみたいですか？
6	子どもの姿に目を向け、じっくりと様子を観てみましょう。	近所の子ども、親戚の子ども、歳の離れた兄弟姉妹など、誰でもよいので乳幼児期の子どもの姿を観察してみましょう。そして、その子どもの感じていること、考えていることを想像してみましょう。子どもならではの発想や表現の豊かさ、面白さが見えてきますよ。
7	これまでに自分がお世話になった、尊敬できる恩師をたずねて、その先生の教育理念や子どもに対する思い等について話を聞き、文章にまとめておくこと。	「だから、あの時、先生は……」とか「そんなところまで考えて……」など、これからよい教育者を目指す上で大切な発見がきっとあるでしょう。
8	遊びについて考える	子どもの頃によくしていた遊びをしてみて、その遊びや遊具には子どもの発達上でどういった意味があるのか、子どもにとってどういったおもしろさがあるのかを考えてみてください。
9	何度か図書館へ行って、複数の新聞社の同じ日の新聞の1面や社説を読み比べてみる。図書館に行く習慣をつける。	これにより、新聞社による主張（思想性）の違いや、今の社会で起きている重要な出来事の一部を理解することができます。社会やメディアの本質を見抜き、多面的に物事を見る目の基盤を養い、広く社会全体に目を向け、自分の世界を広げましょう。
10	自分の原体験（植物・動物・天体・科学…等）の傾向についてまとめ、弱い分野について意識的に体験を増やす。	幼児の環境領域、小学校の生活科・理科の指導には教師自身の原体験が必要です。近所を散歩しながら今まで気づけなかった自然に触れ、遊びを体験してみてください。
11	身近にある材料で何かひとつ「好きなもの」をつくったり描いたりしてみる。	造形・図画工作を指導するには、やはり、「つくること」「描くこと」に関心を持ち好きになって欲しいです。まずはやってみましょう。
12	1か月間、日記をつけてみる。	1日に一つ、人とかかわりをおして、嬉しかったこと、楽しかったことをピックアップして、30年後の自分が読んでもそのときの情景を正確に、具体的に思い描くことが出来るように、丁寧に記載してみましょう。教育・保育は、一人一人の子どもを個人として尊重し育む営み・実践です。生活の記録をおして、「自分らしさ」について考えてみてください。

教育心理学科 (できるだけ多くの課題に挑戦しましょう。入学後にレポートしてもらいます。)

	課題	コメント
1	スクールカウンセラーに会って、仕事の話聞く。	高校でも卒業した小中学校でもよいので、スクールカウンセラーに会い、その仕事について話を聞いてみて下さい。学校やスクールカウンセラーに迷惑とならない範囲で、時間を約束すること自体、工夫のしどころです。相手の状況を考えて行動する力をつけていきましょう。
2	教諭・養護教諭・スクールカウンセラーなど学校の先生に、どうしてその職業を選んだのか、仕事のやりがい何かをインタビューして、自分の職業に対する意識や考えを深めること。	大学は、社会に出て行くための通過点ですが、そこで何を学ぶかは皆さん自身がどう考えるか、どうしたいかによります。これからの人生を人任せにせず自分で選択して充実したものにできるように、まずは身近な人の人生の選択に触れてみるのはいかがでしょうか。
3	不安という感情との付き合い方について考えてみてください。	皆さんは何かを行動するときに不安を感じることはありませんか？不安という感情は人が自分を守ったり、成長したりしていくうえでとても重要な役割を果たしています。自分にフィットした不安との付き合い方をもてるようになると、さまざまなことにチャレンジしやすくなります。是非、この機会に考えてみてください。
4	日常生活の中で、他者に対する思いやり行動を実践すること。	「誰かが困っていたら助けてあげる」など、日常生活の中で他者に対する思いやり行動を実践し、他者の気持ちに共感することや他者を援助することの意義を味わってみましょう。特に気負う必要はありません。無理なく実践できることから少しずつ始めてみましょう。
5	これまで行ったことのない場所、会ったことない人と出会う体験をする。	これからは、自ら新たな経験を求め、自分の意思で行動し、責任を持つことが大切になります。
6	+10(プラステン)：今より10分多く体を動かそう。	今の生活より10分多く、毎日からだを動かすことを心がけ、心と身体の健康を維持する習慣を身につけておきましょう。
7	小学生・中学生の頃の体験を思い返してみることに。	子どもたちに出会うと、自分の子ども時代の記憶や体験が刺激され、時によみがえってきます。楽しかったことだけでなく、辛かったこと、苦しかったこと、頑張ったことなど、いろいろ思い返しておくことをお勧めします。
8	身の回りにある解決または改善すべき課題を見つけ、自分にできることを考え、実行する。	人の役に立つために何が必要か、何ができるかを考えて実行することは、これからの大学での学びの基礎となります。自分の周りにまず目を向けてみてください。
9	基礎学力を維持しましょう。	大学での学びを支えるのは、これまで積み重ねてきた基礎学力です。公認心理師を目指すためには英語が必須ですし、統計も扱います。高校までの学習内容(特に数学)を復習しておきましょう。
10	新聞を読みましょう。	社会問題・健康問題・教育問題に関心を持ち続け、どうしてそのような問題が発生してしまうのか、日ごろから調べ、深く考える習慣を作りましょう。
11	学校訪問、保健室訪問をする。	学校と通学路を、子供の目線で観察しましょう。特に安全面、養護教諭の一日を観察し、レポートしましょう。健康面から見た学校環境についてレポートしましょう。養護教諭の仕事が、何に(誰に)、どのように繋がっているのか、養護教諭は何を願っているのかについてまとめましょう。
12	大学卒業までに達成したいことを10個書き出す。	4年間は「あつという間」です。4年後、どんな自分になっていたいかをイメージして、大学生の間にやってみたいことや成し遂げたいことをリストアップして保存しておきましょう。他の人には見せなくていいので、ぜひ自分の心に正直に。
13	これから教育学部で学ぶにあたり、どの様な教育者になりたいか、考えてきてください。	様々な本を読んだり恩師と話したりして、自分がどうして教育学部を選んだのか、改めて考えるきっかけになって欲しいと思います。
14	NHKオンデマンドにある東田直樹氏の出演した番組を視聴しましょう。	障害者と定形発達の間目はどこなのか考えてください。
15	子どもに関する医療や福祉に関する新聞記事やTV番組から情報を収集しましょう。	子どもに接する資格取得を目指すにあたって、医療・福祉の分野で子どもたちをめぐって話題となっていることや最新のニュースに関心を持つようにしてください。
16	大学入学にあたっての心境を、あなたが最も信頼する人に向けて、手紙をしたためる。	自分の思いを文章にして伝えることで、大学入試に際しての決意、目的意識などが自分の中で明確になり、入学後の生活および学習意欲につながります。

薬学科

	課題	コメント
1	高校までの物理・化学・生物・数学の復習をしておくこと。	薬学科の専門科目には、高校までに習った知識を必要とする科目が含まれています。したがって、これらの基礎学力は2年次以降の薬学専門科目に大きく影響するため、入学までに高校で習った範囲をしっかりと復習しておいてください。なお、オリエンテーション期間中にこれらの科目についてプレースメントテストを行います。(p.15の6を参照)

幼児教育学科

	課題	コメント
1	子ども理解のための体験を積みましょう。	子ども理解のための学習に役立ちます。
2	家事などを通して、生活者としての実践を積みましょう。	保育所、幼稚園、施設の実習に必ず役立ちます。
3	時事問題や、社会常識などに目を向け、見識を広げましょう。	社会の動きが、様々なことに影響する様子を理解できます。
4	音楽や表現など、実技系の特技を磨きましょう。	入学後は、ピアノ個人レッスンがあるので、出来る限りピアノに触れ、楽譜を読む練習をしておきましょう。また、童謡や手遊びにも慣れ親しんでおきましょう。
5	高校までの学習内容を復習しておきましょう。	保育者になるための就職試験に必要です。また保育者として働くうえで、基礎的な学力・教養は必ず求められます。